

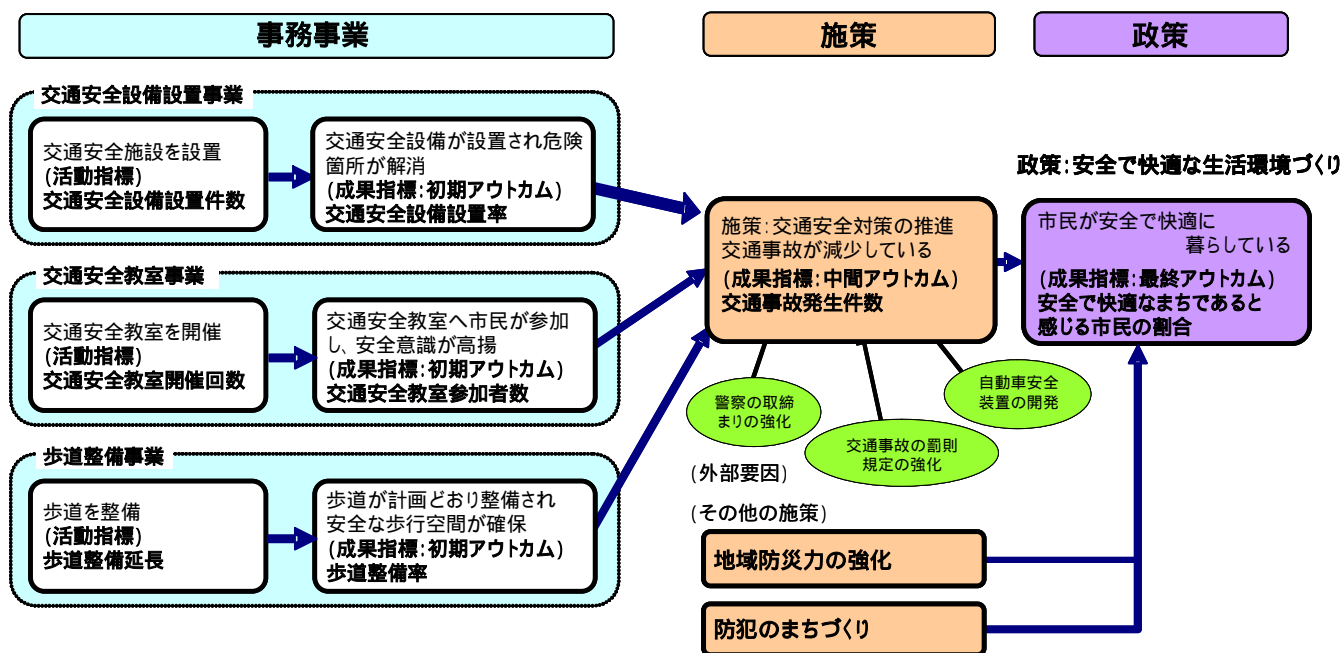
行政活動の成果を測る指標

第2回及び第3回会議の審議の中では、補助金事業を適切に評価する上では、団体の活動実績や補助金の費用対効果を定量的に把握するための指標を設定することが重要との意見があり、第3回会議の資料15でも、新たな評価区分の設定に繋がる論点の一つとして取り上げた。さらに、第3回会議の資料13に含まれているように、事業の目標達成状況を成果指標の推移の形で捉える必要があるとの指摘もいただいた。

そこで、まずは補助金事業を含む様々な行政活動を評価する上での指標の考え方と事例について整理する。

1 活動指標と成果指標の考え方と事例

行政活動では、活動のために必要な経営資源（ヒト・モノ・カネ）が「投入」され、それを用いて「活動」が行われて行政サービスが生まれ、このサービスが市民に提供されることによって「成果」として現れるという一連の流れが形成される。さらに、「成果」は、行政活動によって直接的に生み出される「初期アウトカム」から、市民満足や公共の福祉の実現などの「最終アウトカム」に至るまで段階的に波及していく。



2 その他の成果指標の事例

No	事業	活動・初期成果指標	中間・最終成果指標
1	手話講習会	開催回数、参加人数	資格取得者数、ボランティア登録者数
2	防犯パトロール	パトロール回数	犯罪発生件数、市民が安全と感じる割合
3	道路改良工事	道路改良延長、改良率	アクセス短縮時間、開通による経済効果